

2月の新着本

2月 13日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

類	朝井 まかて	森鷗外の“不肖の子”類。愛情豊かな父、美しい母、ふたりの姉と何不自由なく暮らした少年時代。父の死という大きな喪失を抱えながら、画業を志しパリへ遊学した青年時代。戦後の困窮から心機一転、書店を開業。文筆家の道へ-時代の荒波に揺さぶられながら、鷗外の子としての宿命と格闘し続けたその生涯。
スター	朝井 リョウ	新人の登竜門となる映画祭でグランプリを受賞した立原尚吾と大土井紘。ふたりは大学卒業後、名監督への弟子入りとYouTubeでの発信という真逆の道を選ぶ。受賞歴、再生回数、完成度、利益、受け手の反応…作品の質や価値は何をもって測られるのか。私たちはこの世界に、どの物差しを添えるのか。
アマテラスの暗号	伊勢谷 武	神道とはなにか? 天皇家の正統性とは? 日本人はどこからきたのか? われわれにとってタブーでありつづけた、古代史究極の謎。——その鍵は最高神“アマテラス”、そして宮中最大の秘祭“大嘗祭”に封印されていた…。
推し、燃ゆ 【第164回芥川賞】	宇佐見 りん	逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ。アイドル上野真幸を“解釈”することに心血を注ぐあかり。ある日突然、推しが炎上し——。デビュー作『かか』が第33回三島賞受賞。21歳、圧巻の第二作。
今度生まれたら	内館 牧子	結婚至上主義時代に生き、70歳になった佐川夏江。何の不満もない老後だといえる。だが、自分の人生を振り返ると、節目々々で下してきた選択は本当にこれでよかったのか。進学は、仕事は、結婚は。あの時、確かに別の道もあった。やり直しのきかない年齢になって、夏江はそれでもやりたいことを始めようとする。
死神の棋譜	奥泉 光	一負けました。これをいうのは人生で何度目だろう。将棋に魅入られ、頂点を目指し、深みへ潜ってしまった男。消えた棋士の行方と魔の図式の謎を追って、北海道の廃坑から地下神殿の対局室まで旅が始まる。芥川賞作家が描く、傑作将棋エンタテインメント!
オルタネート	加藤シゲアキ	高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに、三人を待ち受ける未来とは一体一。“あの頃”の煌めき、そして新たな旅立ちを端正かつエモーショナルな筆致で紡ぐ、新時代の青春小説。
家族じまい	桜木 紫乃	「ママがね、ポケちゃったみたいなんだよ」。突然かかってきた、妹からの電話。両親の老いに直面して戸惑う姉妹と、それぞれの家族。認知症の母と、かつて横暴だった父……。別れの手前にある、かすかな光を描く長編小説。
たかが殺人じゃないか	辻 真先	昭和二四年、ミステリ作家を目指す風早勝利は、新制高校三年生になった。旧制中学卒業後の、たった一年だけの男女共学の高校生活。しかし修学旅行代わりの小旅行で、密室殺人事件に巻き込まれる。さらにキティ台風が襲来する中で起きた首切り殺人事件!二つの不可解な事件に遭遇した勝利たちは果たして…。
滅びのまえのシャングリラ	凧良 ゆう	「一ヶ月後、小惑星が衝突し、地球は滅びる」学校でいじめを受ける友樹、人を殺したヤクザの信士、恋人から逃げ出した静香。そして—荒廃していく世界の中で、四人は生きる意味を、いまわのきわまでに見つけられるのか。圧巻のラストに息を呑む。滅び行く運命の中で、幸せについて問う傑作。
リーダーとして覚えてほしいこと	野村 克也	適材適所の起用と言葉の力で幾多の選手を再生・開花させ、「野村再生工場」と呼ばれた智将による決定版リーダー論。豊富なエピソードとともに、自ら体得した教訓を語る。「戦略・戦術の実行」「データの活用」だけでは強いチームはつukれない。名将の思想の神髄を知る。
女だてら 【今月のスタッフおすすめ本】	諸田 玲子	文政11年、漢詩人・原古処の娘であるみちは、若侍に姿を変えた。昨年、秋月黒田家の嫡子が急死し、福岡の黒田本家の専横に対抗できる人物を立てるべく、京、そして江戸へと向かう密命をおびたためだ。—実在した漢詩人・原采蘋の数奇な半生と、お家騒動の驚きの内幕をスリリングに描いた、圧巻の歴史ミステリー。

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理 2月号」は閲覧できます。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお、3月新着本貸出日(3月13日)から貸出いたします。

